

1987年度物性若手夏の学校報告

話しいただきました。又、物性研の赤沢氏には超低速イオン吸着の実験の発表を、阪大の大辻氏にはW(100)の計算機実験の発表をしていただきました。

(世話人 垣谷公德)

サブゼミ 誘電体

最近、誘電体の分野でも低温での物性が注目を集めるようになってきました。中でも混晶系のダイポールガラスには、国内、外でいくつものグループが研究に携わっています。また誘電体の研究者によるペロブスカイト構造を持つセラミックスの高温超伝導体の発見により、低温での誘電体の物性が見直されています。

そこで今年は、ダイポールガラス～低温での誘電体の物性～というテーマでサブゼミを行いました。

まず初日には、講師の高重先生にアモルファス強誘電体、quantum ferroなどの低温での誘電体の物性についてのレビュー的なお話、それにチューリッヒでのMüllerらとの高温超伝導体の研究について、色々な体験談をまじえてお話していただきました。

2日目には、発表者の御二人にそれぞれ混晶系のダイポールガラスについてのお話をしていただき、出席者全員で議論がなされました。

今年は出席者が少し少なめでしたが、たいへん有意義な時間を過ごすことができたと思います。

最後にこの場をかりて、たいへんお忙しい中、講演を引き受けて頂いた講師、発表者の方々にお礼申し上げます。

(文責 坂田英明)

サブゼミ 「物性基礎論Ⅱ」 「解けるモデル」

阿久津泰弘氏(神奈川大物理)に講師をお願いしました。2次元格子模型の厳密解について、初歩から最近の発展まで講義して頂きました。発表者は、世話人が予めお願いしていた井上真